

博士論文要旨

| | |
|--|---|
| 関西福祉大学大学院 看護学研究科看護学専攻博士後期課程 | 学籍番号 8119103 氏 名 山崎 晶子 |
| 論文題目 | 乳幼児期のコペアレンティングと妊娠期の父親像形成に関する研究 Research on Coparenting during Infancy and Paternal Image Formation during Pregnancy |
| <p> 【研究全体の目的】 共働き夫婦の増加に伴い、家事や育児を分担する夫婦は増えてきているものの、依然として妻に負担が集中していることが報告されている。夫婦で子育てについて責任を共有し、親役割を調整してサポートし合いながら取り組む共同育児をコペアレンティングといい、コペアレンティングの促進が妻の育児負担軽減に重要な役割を果たす可能性がある。長時間労働や伝統的な性別役割がコペアレンティング実現の阻害要因に挙げられるが、男性が親としての自覚や子どもへの愛情を女性に比べて早期に自覚しにくいことも要因の一つと考えられている。父親像の中心的な概念である父親意識の獲得過程に関して文献検討を行った結果、妊婦健診の同行・両親学級への参加経験がある父親は家事育児の参加傾向が高いことなどは報告されていたものの、父親意識の獲得状況との関連について確認することができなかった。そこで、本博士論文では妊娠中に形成された父親像が、乳幼児期のコペアレンティングにどの程度影響を及ぼすか検討することを主な研究目的とした。 </p> <p> 【方法】 3歳未満の第一子を養育している 18-55 歳の父親を調査委託会社を通じて募集し、研究参加希望者に向けて Web で回答可能な無記名自記式質問紙を配布した。父親像の形成状況の評価には、「子どもの存在から沸き立つ思い」「父親意識の高まり」「妻への思い」という 3 つの下位尺度を有する「親になる移行期の父親らしさ尺度（父親らしさ尺度）」を用い、コペアレンティングの評価には日本語版コペアレンティング関係尺度（CRS-J）を用いた。本研究では CRS-J の得点を従属変数に設定し、父親らしさ尺度の 3 つの下位尺度と先行研究でコペアレンティングに影響を及ぼす可能性が示唆されている、「父親の年齢」「年収」「妻の就業」「夫婦以外の支援者」「胎動の主観的確認頻度」「赤ちゃんのイメージ」を独立変数として段階的に投入した 3 つの重回帰モデルを作成し、乳幼児期における夫婦のコペアレンティングがどのような要因による影響を強く受けているか検証を行なった（解析対象者：1,621 名）。さらに、父親像の形成に影響を及ぼす要因を検討するため、「父親の年齢」「年収」「妻の就業」「夫婦以外の支援者」「妊娠判明時の婚姻状態」「両親学級参加」「産前産後健診の同行」「子どもの出生時体重」を独立変数に設定し、父親らしさ尺度の下位尺度を従属変数とした 3 つの重回帰モデルを作成し、初めて親になる男性の父親像がその形成過程においてどのような要因の影響を受けているか検討を行なった（解析対象者：1,523 名）。なお、本研究は関西福祉大学研究倫理審査委員会の承認（第 3-0223 号）を受けて実施した。 </p> <p> 【結果】 CRS-J 得点を従属変数とする 3 つの重回帰モデルはいずれも有意な回帰性を示したが、全ての </p> | |

モデルにおいてコペアレンティングに対する有意な影響を示した独立変数は、「子どもの存在から沸き立つ思い」「父親意識の高まり」「妻への思い」のみであった。続いて、父親像に関連する要因を検討するために行った「子どもの存在から沸き立つ思い」「父親意識の高まり」「妻への思い」を従属変数とした重回帰分析においても、全てのモデルで有意な回帰性が示された。また、投入した独立変数のうち、父親の年齢や産前産後健診への同行歴に有意な関連が認められ、産前産後健診への同行経験のある若い父親において、3つの従属変数の得点が高くなる傾向にあることが確認できた。なお、両親学級への参加は「子どもの存在から沸き立つ思い」と「父親意識の高まり」にのみ影響を与え、夫婦以外の支援者の存在は「父親意識の高まり」にのみ、妊娠時の婚姻状態は「妻への思い」にのみ有意な影響を及ぼしたが、いずれの変数の偏回帰係数も低値であり、父親像形成に対する強い影響は確認できなかった。

【結論】乳幼児期におけるコペアレンティングを促進する父親の要因には、妊娠期から出産後1か月頃までにおける父親像の形成状況や夫婦関係が強い影響を及ぼしていることが示された。また、産前産後健診の同行や両親学級参加などの出産準備と一緒に取り組んだ夫婦の夫は、父親像の形成が進みやすいことも示唆されたが、その影響は限定的であった。そのため、父親像の形成が進んでいる父親の特徴についてはさらなる検討が必要であり、信頼性の高いデータを得るためには縦断研究を行うとともに、母親を含めた調査を行うことで、本研究結果の妥当性をさらに検証する必要がある。本研究を通して、乳幼児期におけるコペアレンティングを促進するためには、父親意識を高める支援が有用である可能性が示唆された。

主指導教員氏名 濱西 誠司